

次代へ継承 おいとこ節

奥州森邑十三講秋祭り・第23回伊達なおいとこ踊り宮城大会が11月10日、旧森小学校の体育館を会場に開催されました。「おいとこ踊り」は、主に岩手県南から宮城県北にかけて、祝いの席での座敷踊りとして踊られています。今年の大会には市内外から17組が参加。会場に訪れた大勢の皆さんは、地域ごとに少しずつ違う唄や踊りを楽しんでいました（17〜19ページ）



おいとこ踊りは、祝いの席での座敷踊りとして踊られるほか、寄り合いを盛り上げる余興として伊達藩にうたい継がれた民族芸能です。大会では、日頃練習してきた自慢の踊りを披露しました

美人看板娘へのあこがれの唄

江戸時代の半ばころ、現在の千葉県多古町の日本寺に中村檀林という学問寺がありました。そこで学んでいた若い学僧が白枳（千葉県芝山町）粉屋の茶店の看板娘を慕って唄を作り、檀林内で流行させました。やがて修学を終え故郷へ帰った学僧たちが各地に広めたのがその始まりと言われています。その後、「おいとこ」は伝えられた地方で歌詞を変え、その地方の民謡として受け継がれています。

石越

東京いしこし会総会を開催



▲歌や踊りにでぎわうステージを楽しむ会員の皆さん

ふるさとに思いを寄せて

今年で20回目となる「東京いしこし会総会・交流会」が11月17日、都内の東天紅上野店で開催され、在京の石越町出身者、関係者など約80人が参加しました。総会後は、20周年を記念した「和の調べミニライブ」を開催。石越町出身の金澤敏彦さんらによる尺八の演奏や石越民謡同好会による宮城長持唄などが披露されました。参加した皆さんは素晴らしい演奏や歌声に聞き入っていました。交流会では、会員の皆さんがステージで歌や踊りを披露したり、互いの近況を語り合ったりして、大いに盛り上がりました。

絆強め地域で共に暮らす

「南東・南三 住みつづけたいまちづくり」と題した交流会が11月9日、南方の仮設住宅集会所で開催されました。東郷まちづくり応援会（佐々木勉会長）が市の「協働のまちづくり・地域交付金事業」を活用し企画。南方・東郷地区と南三陸町で被災し同地区の仮設住宅で暮らす住民が、食と文化を通じて交流を深めようというものです。交流会には約140人が参加。東郷地区に伝わる大嶽丸の伝説や南三陸町の地域文化を互いに紹介したり、双方の女性陣が作った「はっと汁」を食べたりと、心もおなかも満足する一日となりました。

仮設住宅住民と交流会開催

南方



▲みんなで作った郷土料理「はっと汁」に舌鼓。互いの会話も弾みます

津山

幼年防火クラブでパレード



▲おそろいの法被姿で行進しながら火災予防を呼び掛ける子どもたち

元気な声で「火の用心！」

つやま幼稚園幼年防火クラブの園児30人が11月8日、秋季火災予防運動の一環として防火パレードを実施しました。当日は柳津小学校校庭で出発式が行われ、園児の代表が「僕たち、私たちは、絶対に火遊びはしません」と元気よく誓いの言葉を述べました。その後、つやま幼稚園保護者会や婦人防火クラブ員らと一緒に、柳津小からつやま幼稚園まで約1キロの区間を行進。拍子木を打ちながら「火の用心、マッチ一本火事のもと。たき火の始末しつかり」と大きな声で沿道の人たちに火災予防を呼び掛けました。